

普及活動情勢報告（令和7年2月分）

中央東農業振興センター農業改良普及課

土壌分析に基づく施肥改善によるやっこねぎの品質向上



分析結果を基に施肥設計を指導する普及職員

8月の11名に続き、12月に新たにJ A高知県香美地区やっこねぎ部会20名のほ場から土壌を採取し、1月には詳細分析の結果を生産者と共有しました。

これまで部会79戸のうち32戸で分析を実施した結果、リン酸や塩基（カリ、苦土、石灰）が過剰集積しており、硫化物及び塩化物による影響で、EC値が硝酸態窒素量の目安にならないことが改めて分かりました。

生産者には、J Aと連携し、元肥の無施用や追肥ではリン酸、塩基含有量の少ない肥料の施用など、土壌分析に基づいた施肥指導を行いました。

農業改良普及課は、今後も葉先枯れなど生産性低下要因の改善に向け、関係機関と連携し土壌分析・診断を進め対策を講じること、やっこねぎの安定生産を支援します。

露地で稼ごう！ ～土長地区南国市オクラ部会オクラ栽培講習会～



営農経済センターでの栽培講習会の様子

1月23日、南国市でJ A土長地区南国市オクラ部会がオクラ栽培講習会を開催し、のべ20人が参加しました。

農業改良普及課からは露地栽培における種準備からトンネル換気までの管理のポイントを説明し、J Aからは新品種の特徴について説明がありました。

生産者からは「無理な早まきはせず、桜の開花時期を目安にまくようにする」といった声があり、天候に合わせた栽培管理の重要性が理解されました。

また、普及課からSAWACHIを活用した栽培管理について説明し、参加者の多くがSAWACHIに加入しました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携しデータを活用したオクラの収量向上に向け支援します。

キャベツの産地化を実現させるぞ。～国営営農推進部会（南国市営農改善会）～



産地化に向けた課題と対策を協議

1月29日、J A土長営農経済センターで国営営農推進部会が開催され、J Aや南国市等関係機関から26名が出席しました。

農業改良普及課は、事前に南国スタイルやJ Aと打合せを重ね、キャベツの産地化に向けた課題整理と生産拡大の目標設定を支援しました。

会議では、国営基盤整備の進捗状況や今年度実施したタマネギ及びキャベツの栽培実証等の結果を共有しました。キャベツの産地化では、南国スタイルを中心に5年後30haに生産拡大することを目標とし、既存施設の活用や機械導入などJ Aや行政が産地化に向けた取組を支援することを確認しました。

農業改良普及課は関係機関と連携し、キャベツの産地化など国営ほ場での営農推進に取り組みます。

高知農業高校への出前授業



就農支援制度について
説明する普及指導員

2月10日、高知農業高校の1年生33名を対象に出前授業を行いました。

農業改良普及課から「食料・農業・農村基本法の改正」や「就農支援制度」について、(株)西島園芸団地から、同社が実施する6次産業の取組やメロン・イチゴ等の栽培方法について説明しました。

生徒達は終始熱心に耳を傾け、支援制度や特色ある営農経営体から加工の話に触れて、授業後のアンケート結果では、農業への関心の高まりがみられました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携し、農業の魅力発信に努めてまいります。

環境データ活用しましょう！ ～水晶文旦研究会現地研修会～



現地研修会の様子

2月12日、J A高知県香美地区果樹部水晶文旦研究会が現地研修会を開催し、5人が参加しました。

参加者の園地を巡回し、着花過多の園地では「これだけ花が多いと摘蕾せないかん」「どの花を落とすのがえいがやる?」といった栽培技術に関する議論が生産者間で活発に行われていました。振興センターからは環境データを活用した温度管理や栽培管理のポイントを説明し、「温度センサー入れてみようか」と、環境データの活用に前向きな生産者もみられました。

農業改良普及課は、今後もJ Aと連携し水晶文旦の高品質安定生産に向けて支援します。

ほかの人はどうしゅう? ～土長地区大葉部会現地検討会～



意見交換をする生産者

2月18日、南国市内のほ場にて、J A高知県土長地区園芸部大葉部会が現地検討会を開催し、生産者16名と関係機関が参加しました。

J Aからは新規の登録農薬について説明があり、農業改良普及課からは、定植に向けてトラクターや農業機械に関する農作業安全について説明しました。その後、2グループに分かれてほ場を回り、意見交換を行いました。

生産者からは「温度設定が低いと病気がきてしまうから温度を見直してみた」「自分のハウスよりも涼しいけど換気はどうしている?」といった活発な意見交換がされていました。

農業改良普及課は今後も関係機関と連携し、大葉の生産安定に向けて支援します。

シシトウ産地が変わっていくために！ ～南国地区シシトウ生産者大会～



産地の現状と課題解決に向けた取組を発表する
生産者

2月18日、香南市の一寿司会館で、7年ぶりに南国地区シシトウ生産者大会が開催され、生産者や市場担当者、J A、行政機関を含む64名が出席しました。

大会では、生産者代表が「産地の現状と課題解決に向けた取組」について発表し、J A高知県は「新たな包装形態の検討」について情報提供を行いました。また、市場側からは「京浜市場から見たシシトウの現状と課題」について情報提供がありました。

生産者からは「詰め子が確保できないため、出荷形態を変える以外に選択の余地はない」という意見が出され、市場担当者からは「出荷形態の変更は長年議論されてきたが、やっと動いてきたのを感じた、産地と一緒に考えていきたい」という前向きな声が聞かれました。

農業改良普及課は、大会事務局として、関係機関との調整や産地の意見集約などを行いました。今後は、出荷形態の変更に向けた産地の合意形成など関係機関と連携し、支援していきます。